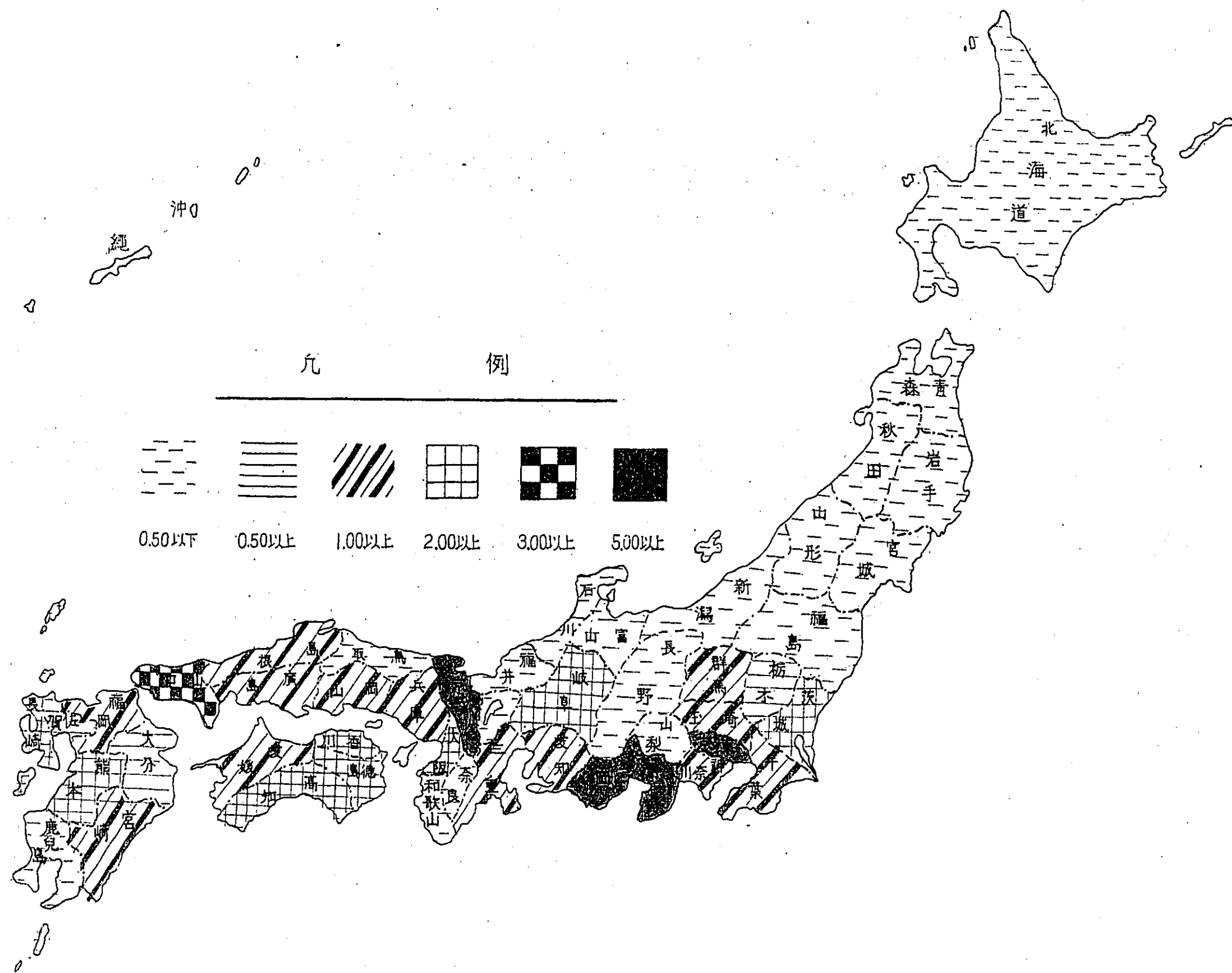


自大正十四年 } 五箇年疫痢患者發生數人口萬對率表
至昭和四年



第三章 疫痢患者の轉歸

第一節 疫痢患者の年次別轉歸

一、岐阜縣疫痢患者の年次別轉歸

既往十箇年間に發生せる疫痢患者に就て其の轉歸を調査するに、各年に於て著しき差を見ず。
昭和元年の死亡率七三・三九%を最低として、大正十二年の八八・八九%を最高とし、平均八二・五四%の怖るべき死亡率を示すものなり。

自大正九年 至昭和四年 疫痢患者年次別死亡率							
年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分比	年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分比
大正九年	二〇六	一七一	八三・〇一	昭和元年 十五年 計	二二三	一七一	七三・三九
同 十年	二二五	一七六	八二・六六		二四五	二〇〇	八二・六三
同 十一年	一三五	二一七	八六・六七		二七一	二二〇	八二・一八
同 十二年	一三五	二二〇	八八・八九		二六三	二二九	八三・二七
同 十三年	一七二	一〇〇	八五・四七		二、〇三八	一、六七四	八二・五四
同 十四年	二〇八	一八〇	八六・五四				

二、全國疫痢患者の年次別轉歸

既往五箇年の全國疫痢患者の轉歸は左表の如し。

自大正十四年 至昭和四年 全國赤痢（疫痢ヲ含ム）患死者數							
年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對 スル死亡者 數百分率	年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對 スル死亡者 數百分率
大正十四年	一四、八八六	六、七八〇	四四・五四	同 三年	二五、三〇四	一一、三〇〇	四四・六八
大正十五年	一七、四九	七、七九〇	四四・七二	同 四年	三〇、三八	一二、六九	四二・六一
昭和二年	二、四五三	九、五四九	四四・五一	平均	二、八七八	九、六〇九	四三・九二

自大正十四年 至昭和四年 全國疫痢患死者數							
年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對 スル死亡者 數百分率	年次	患者數	死亡者數	患者數ニ對 スル死亡者 數百分率
大正十四年	六、三六	四、六三〇	七三・八三	昭和三年	一三、七三	九、一〇九	六六・三四
大正十五年	八、二九八	五、七五九	六九・四〇	昭和四年	一五、一〇七	九、九三九	六五・三六
昭和二年	一一、〇四六	七、五六〇	六八・四四	平均	一〇、九二五	七、三九九	六七・七二

本邦に於ける赤痢は、歐米の赤痢に比して一般に重症なるものゝ如く、従つて死亡率又極めて高く Bauer に 依れば獨逸國にては赤痢の死亡率は一般に低くして約六・〇％に過ぎずと云ふ、我が國に於ける大正十四年より昭和四年迄の五ヶ年平均死亡率は四三・九二％の高率にして、疫痢のみに就て見るに年々遞減するの傾ありと雖も尙ほ六七・七一％の

驚異的數字を示し、只啞然たるものあるは寒心に堪へざることなり。

第二節 年齢別死亡率

一、岐阜縣疫痢患者の年齢別死亡率

疫痢患者の死亡率を年齢別に觀察するに左表の如く、最も死亡率高きは低年者にして實に異例的高率を示し、七歳以上の者に至りては年齢の増加に伴つて死亡率の遞減するを見る、本縣にては四歳のもの罹病者多く又死亡率高し。

自大正九年 至昭和四年 疫痢患者年齢別死亡率												
年齢	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分率	年齢	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分率	年齢	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分率	計
一歳	三三	六九	二〇・三	七歳	一五	九六	七六	八歳	七	三三	四七	二〇・三
二歳	三〇	四九	一六・三	八歳	九六	七六	七六	九歳	三三	四七	四七	一六・三
三歳	四八	四九	一〇・二	九歳	七六	四八	六三	一〇歳	四	一〇	二五	二五
四歳	四二	三六	八・六	一〇歳	四	一〇	二五	一一歳	一	一	一〇	一〇
五歳	四二	三五	八・三	一一歳	一	一	一〇	一二歳	一	一	一〇	一〇
六歳	三三	二六	七・九	一二歳	一	一	一〇	一三歳	一	一	一〇	一〇
七歳	一五	九六	七六	一三歳	一	一	一〇	一四歳	一	一	一〇	一〇
八歳	七六	四八	六三	一四歳	一	一	一〇	一五歳	一	一	一〇	一〇
九歳	三三	四七	四七	一五歳	一	一	一〇	一六歳	一	一	一〇	一〇
一〇歳	四	一〇	二五	一六歳	一	一	一〇	計	一六	二〇・三	一二・六	二〇・三
一〇歳	四	一〇	二五	計	一六	二〇・三	一二・六					

二、全國疫痢患者の年齢別死亡率

全國中八府縣に於ける疫痢患者の五ヶ年平均に依る年齢別死亡率を見るに左表の如し。

自大正十四年（五箇年間）地方別疫痢患者死者年齢別
至昭和四年

年 齡	地 方 別							
	一 歳	二 歳	三 歳	四 歳	五 歳	六 歳	七 歳	八 歳
患死者數	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %
東京府	一三三 三三三 二三・七四	六四三 三九四 六一・三七	三一七 二〇四 六四・四五	四、五七〇 三、一八五 六九・六九	三、二二三 二、三七〇 七三・五三	一、七八七 一、二四七 六九・七八	九三六 六二六 六五・八一	四五九 二八三 六二・六六
静岡縣	五〇・〇〇 二二四	一四四 九〇 六三・五〇	八七六 六六四 七五・八〇	一、三〇六 一、〇一一 七七・四二	九三三 七二一 七七・二〇	五九八 四四七 七四・七五	二八三 二〇〇 七〇・六七	一四七 九三 六二・九八
岐阜縣	九〇・〇〇 九一〇	二九 二〇	二〇三 一七八 八八・二三	三三四 二六五 八四・三九	二五五 二二八 八五・七〇	一六三 一二六 七七・三〇	一〇六 八三 七八・三〇	四八 三四 七〇・八三
京都府	四二・一一 八一九	一七三 一七一 四一・〇四	七二四 三三三 四四・四七	一、〇六七 五〇九 四七・七〇	八四三 四三三 五二・三六	四六六 二九九 五二・一九	二九六 一四二 四七・六四	一四四 五六 三八・八九
大阪府	二八 一九	二四三 一六九 六九・五五	七四八 四六八 六二・五七	一、〇三七 七〇三 六七・六九	六五四 四五五 六九・五七	三八〇 二六〇 六八・四三	二二三 一四七 六六・三三	一〇六 五六 五三・八三
徳島縣	四〇・〇〇 二二五	四三 二〇	一七二 一〇五 六二・〇四	二五五 一六四 六四・三三	一八〇 一三三 六七・七八	一三三 九二 六九・七〇	七二 四九 六九・〇一	元 一九 四八・七三
廣島縣	八五・七一 六六七	六二 四一	二六九 一九八 七五・七四	三八五 二七九 七二・四七	二七一 二〇八 七六・七五	一七五 一四 七〇・八六	八八 六二 七〇・四五	五四 三七 六八・五三
福岡縣	五〇・〇〇 二二四	六五 四一	三九七 二六八 六七・五二	四九三 三七二 七五・四二	三七二 二六九 七二・五一	二四三 一六六 六八・六〇	二六 一六 六八・六〇	八〇 四六 五七・五〇
合 計	三二六 八一 三七・五〇	一、四〇〇 八四七 六〇・五〇	六、五六四 四、二五〇 六四・七五	九、四二六 六、四八六 六八・八一	六、七一九 四、七九六 七二・三八	三、九四三 二、七〇一 六八・五〇	二、二二八 一、三七二 六四・四三	一、〇七七 六三三 五七・八四

九 歳	十 歳	十一 歳	計
患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %	患者數 死亡者數 %
二四五 一四〇 五五・二三	二一六 五九 四六・〇九	二七七 一〇八 三八・九八	一五、五九一 一〇、八四二 六七・三四
五三九 五三 五二・五三	五〇 二四 四八・〇〇	一一七 四一 三五・〇四	四、五四六 三、三四四 七三・五六
三六 二四 六六・六七	二三 一四 六〇・八七	三四 一九 五五・八八	一、二三〇 九九〇 八・一四
一一〇 三四 三〇・九一	四〇 一四 三三・〇〇	六七 三三 四七・七六	三、九四九 一、八五九 四七・〇七
五五 三〇 五四・五五	二九 一二 四一・三八	九〇 四〇 四八・八九	三、五九二 二、三六二 六五・七六
二四 一五 六二・五〇	二〇 一〇 五〇・〇〇	二〇 七 三三・〇〇	九六一 六〇五 六二・九六
三〇 一七 五六・六七	二三 一二 五四・五四	五九 二三 五八・九七	一、四〇二 一、〇〇八 七二・九五
四二 一七 四四・四六	一八 八 四四・四四	七二 三二 四三・六六	一、九〇七 一、二九三 六七・七五
六四九 三九 五〇・六九	三三〇 一五三 四六・三六	七二五 三〇五 四三・六六	三三、一六七 二二、九四三 六八・一五

即ち五歳のものゝ死亡率は七一・三八%にして、次で四歳六歳にして六八・〇%を示し、一歳のもの比較的死亡率低く三七・五%にして、八歳、九歳、十歳と年齢と増加に従つて死亡率を遞減するものにして、五歳未満のもの患者數及死亡者多し。

佐田(京大)に依れば四年未満のもの患者數及死亡數共に最大なりと謂ひ、
齋藤(京府大)は三年未満に於て患者數及死亡數多しと。

佐田(京大)

年 齡 別	一年未満	二年未満	三年未満	四年未満	五年未満	六年未満	七年未満	八年未満	九年未満	十年未満	計
罹 病 數	四	二二	三三	三八	一七	二二	二三	四	三	一	一三三

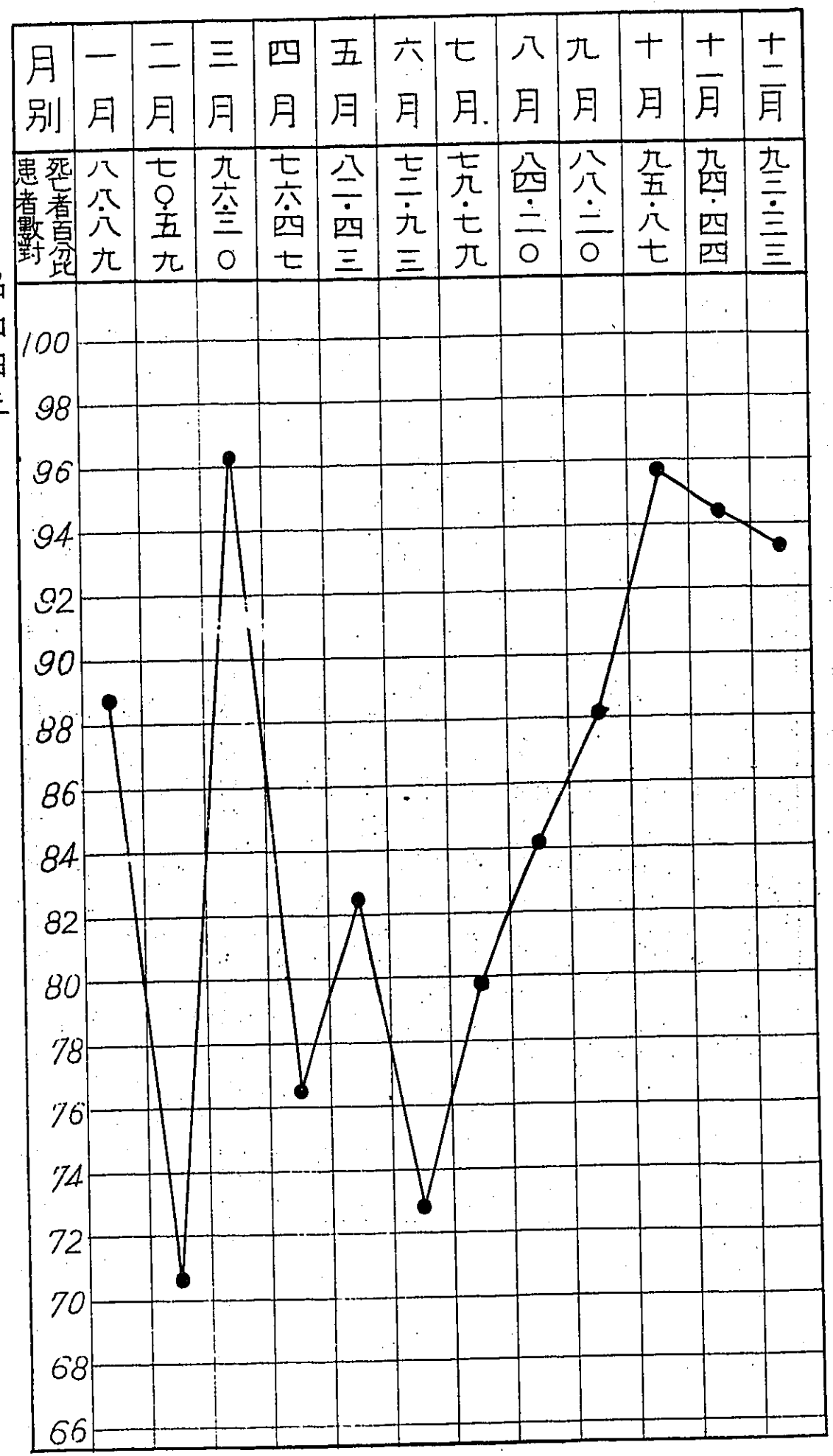
死 亡 率	死 亡 数
二五%	一
四四%	五
四四%	一四
四四%	二七
四二%	七
三六%	四
二五%	三
五〇%	二
	一
	一
元%	五三

齋藤 (京府大)

死 亡 率	死 亡 数	罹 病 数	年 齢 別
四〇%	六	一五	一年未滿
五〇%	二〇	四〇	二年未滿
五五%	三	四三	三年未滿
元%	一五	三	四年未滿
二六%	五	一九	五年未滿
三〇%	四	一三	六年未滿
三〇%	二	一〇	七年未滿
四三%	三	七	八年未滿
	一	三	九年未滿
五〇%	一	二	十年未滿
四〇%			計

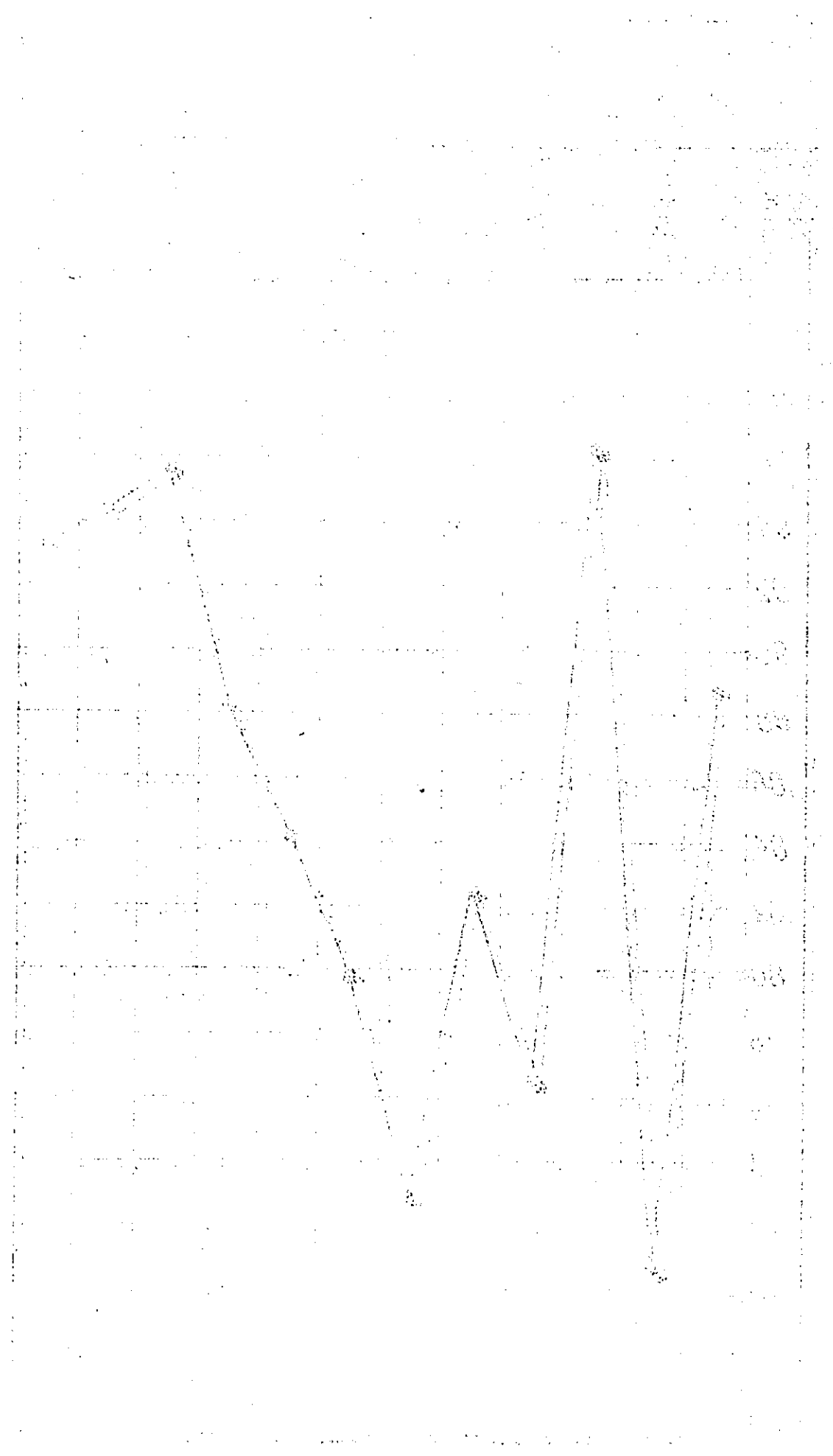
第三節 月別死亡率

疫痢患者の死亡率を季節的に觀察せんが爲め、月別表に依りて見るに流行の初期に於ては死亡率上下するも漸く流行の極期五、六月に於ては死亡率反て低く、七、八、九、十月と流行季節の末期に至るに従つて漸次高率なり。



至昭和四年
自大正九年
疫痢患者月別死亡率

自昭和四年至大正九年 疫病患者月別轉歸別



年次	月別	自大正九年 至昭和四年						
		大正九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	大正十五年
		死患者%	死患者%	死患者%	死患者%	死患者%	死患者%	死患者%
一	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
二	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
三	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
四	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
五	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
六	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
七	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
八	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
九	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
十	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
十一	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
十二	月	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
合	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

計	同		昭	
	四	三	二	年
死患者%	死患者%	死患者%	死患者%	死患者%
八・八九	一〇〇・〇〇	六・六七	一〇〇・〇〇	一・一一
七〇・五九	六・六七	六・六七	九・〇〇	三・三四
九六・三〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	六・五五
七六・四七	八・八九	八・〇〇	四・四五	一・三三
八二・四三	八・〇〇	八・三三	八・一一	一・二二
七二・九三	六・八〇	八・六一	六・〇〇	一・二五
七九・七九	七・四三	七・三三	八・〇〇	六・八〇
八四・二〇	九・〇五	九・〇〇	七・三三	四・五三
八八・二二	一〇〇・〇〇	八・三三	八・八四	三・三八
九五・八七	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一・三三
九四・四四	八・七五	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	二・一一
九三・三三	一〇〇・〇〇	六・六七	一〇〇・〇〇	一・一一
八二・五五	八・二七	二・六三	八・一八	二・四五

昭和四年全國患者の月別死亡率を見るも流行期七、八、九月に於ては寧ろ死亡率減じ、九、十、十一月と晩秋又は一、二、三月に於けるもの死亡率比較的に高きは、流行期節に入りて、其の發生數の多きにも關係するが、比較的に死亡率の少き、岐阜縣下に於ける狀況と同一なりとす。

第四節 地域的死亡率

一、岐阜縣に於ける地域的死亡率

既往十箇年間の疫癘患者の死亡率を郡市別に觀察するに左表の如し。

自大正九年
至昭和四年 疫癘患者地域的死亡率

郡市別	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分比	郡市別	患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡者數百分比
岐阜市	一八〇	一二六	七〇・〇〇	武儀郡	三九四	三八〇	九六・四五
大垣市	五九	四六	七九・三一	郡上郡	七二	四二	五八・九四
稲葉郡	一四八	一二五	七九・七〇	加茂郡	一七八	一九九	八九・三三
羽島郡	七七	二五	六六・三七	可兒郡	二七八	二二七	八二・五八
海津郡	五三	三八	七二・七〇	土岐郡	一〇六	八三	七七・六六
養老郡	四四	三六	八二・八一	惠那郡	三三	一六	六九・五七
不破郡	三三	二八	八七・五〇	益田郡	二六	二〇	七六・九三
安八郡	一四一	一〇五	七四・四七	大野郡	五	二	四〇・〇〇
掛斐郡	一五	一五	九三・一〇	吉城郡	五	四	八〇・〇〇
本巢郡	八三	七〇	八四・三四	計	二、〇二八	一、六七四	八二・五四
山縣郡	二〇	一九	九五・〇〇				

即ち武儀郡の死亡率九六・四％、山縣郡の九五・〇％、掛斐郡の九三・一％を高率とし、次で加茂郡、不破郡、本巢郡可兒郡にして他の郡市に於ては漸次死亡率の減少を見る、勿論疫癘の死亡率は流行の性質並に流行の時と場所によりて差異を生ずるものなるも、今區域的に之を見るに、醫師の分布可良にして醫療機關の完備せる地方に於て死亡率の低き傾向を有す。

二、全國に於ける地域別死亡率

今全國を十區に府別し其の地域別に依る死亡率を見るに左表の如く、近畿地方の死亡率は最低にして五六・〇%を示し、東山地方の七六・五%、中國地方の七六・三%最高率なりとす。

地方別		昭和四年疫痢地方別、月別死亡率											
		月別											
北海道	患者數 死亡率%	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
東北	患者數 死亡率%		100.0	100.0									
關東	患者數 死亡率%												
北海	患者數 死亡率%												
東海	患者數 死亡率%												
山陽	患者數 死亡率%												
計													

近		中		四		九		合	
畿		國		國		州		計	
患者數	死亡率%	患者數	死亡率%	患者數	死亡率%	患者數	死亡率%	患者數	死亡率%
四六	四・三	六九	六・七	九	一〇・〇	六	六・七	一八	七・二
三三	六・七	一〇	一〇・〇	一三	六・七	七	一〇・〇	二七	七・一
四五	四・四	一四	六・三	九	一〇・〇	一七	七・五	三三	七・四
九八	五・〇	二五	六・〇	一七	七・〇	一九	六・三	四三	六・一
一三三	五・〇	三三	八・二	三三	七・五	七九	六・三	七六	六・一
三〇五	四・三	六〇	六・三	四五	六・七	一三〇	六・五	一五三	五・八
六一九	四・四	一七六	七・一	一八四	五・〇	四四六	六・〇	三、五七	五・八
六八五	四・三	二六二	七・〇	二〇九	六・五	三三七	七・〇	三、四九	六・〇
四六五	六・七	二〇	八・〇	一四六	七・三	二八六	七・一	二、四〇	六・八
二六四	七・七	一八一	八・二	一〇八	七・五	一八一	七・八	一、三六	七・九
一二五	七・一	五〇	八・〇	三五	八・〇	六八	八・八	五八五	八・七
六二	七・〇	一九	九・四	一二	一〇・八	三〇	七・二	三四八	一〇・九
二、八七八	一、六一	一、一八	七、六	八三八	五七五	一、五九六	一、〇三	一五、二〇	九、九三
五、〇〇	一一・九	七、六	九・七	六八・六	一〇・三	七〇・二	二九	六五・三	三、七九

第五節 療養食場所別死亡率

本縣に於ける疫痢患者は隔離病舎又は傳染病院に收容するを原則とし、只特別に重症にして移動に堪えざる患者のみは自宅療養を許可せるにより、療養場所に依る死亡率は、従つて自宅療養にては八九・九%の高率を示し、次で公私立病院に收容せるもの四三・二%なり、之れに反し隔離病舎に收容せるものに至りては比較的輕症なりしものなるか死亡率は三一・七%を示すに過ぎず。

自大正十四年 至昭和四年 疫痢患者療養所別

療養所別	區別		患者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡率	療養所別	區別		者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡率
	公	私					公	私			
公立病院	二八					自	宅		一、七四九	一、五七三	八九・八八
隔離病舎	一六					計			二、〇一八	一、六七四	八二・五四

自大正九年
至昭和四年 疫病患者治療所調

郡市別	區別		患者數	治療者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡率	患者數	治療者數	死亡者數	患者數ニ對スル死亡率
	公	私								
岐阜市	五五			三〇	三五	四四・四六	一			
大垣市	一				一〇〇・〇〇		六			
稲葉郡	二			一三	九四・八六		八			
羽島郡	四			三	二五・〇〇		六			
海津郡							五			
養老郡										
不破郡										
安曇郡							三			
掛斐郡							四			
合計										

本集	山縣	武儀	郡上	加茂	可兒	土岐	惠那	益田	大野	吉城	合計
三	一	五	一〇	五	一六	一〇	六	一〇〇・〇〇	一	一	二八
二	一	五	五	五	一〇・〇〇	六	七・五〇	一〇〇・〇〇	一	一	五
二六・六七											五四・三三
二〇	二	六	五	六	五〇	九	一〇	一	一	一	一六
一三	一	五	二	四	三	六	七				一〇
八四〇・〇〇	二〇〇・〇〇	一六・六七	三六〇・〇〇	二二・三三	一六三・〇〇	三三・三三	三三・三三	一〇〇・〇〇			五二
六三	一五	三八	五七	一七	二三	八一	一三	二五	四	五	一七四九
一		九	二四	一五	一三	八		六	三	一	一七
六三	一五	三七	三三	一五	二〇	七	一三	一九	一	四	一、七五二
九八・四一	一〇〇・〇〇	九七・六八	五七・八九	九一・二八	九四・一七	九〇・一二	一〇〇・〇〇	七六・〇〇	二五・〇〇	八〇・〇〇	八九・八八
八三	二〇	三九	七二	七二	一七八	一〇六	二二	二六	五	五	二、〇一八
一三	一	一四	三二	一九	五二	二四	七	六	三	一	三五四
七〇	一九	三八〇	四一	一五九	二二七	八二	一六	二〇	二	四	一、六七四
八四・三六	九五・〇〇	九六・四五	五六・九四	八九・三三	八一・六五	七七・三五	六九・五六	七六・九三	四〇・〇〇	八〇・〇〇	八二・五四

第六節 轉歸者療養日數

既往十箇年間の患者に就き、其の發病より治癒に至る間の平均日數を調査するに左表の如し。

自大正九年
至昭和四年 疫病患者治療日數表

年次區別	患者數	治癒者數	發病ヨリ 治癒マデ 日數	平均治癒 日數	年次區別	患者數	治癒者數	發病ヨリ 治癒マデ 日數	平均治癒 日數
大正九年	二〇六	三	五三	一六・〇	昭和元年	二二	六二	一、三三	二・三
同十年	二五	元	六六	一五・五	同二年	二四	四五	一、一五	二四・六
同十一年	一五	八	三八	一七・六	同三年	二七	五一	一、一五	二三・三
同十二年	一五	一五	二四	一六・三	同四年	二六	四四	一、〇八	二三・四
同十三年	二七	一七	二六	一六・五	計	二、〇八	三五	七、〇六	二〇・〇
同十四年	二〇八	二	四七	一七・〇					

前表に據りて之を觀るに大正十年の平均治療日數の一五・五日を最も短かくして、昭和二年の二四・六日最も長し、通觀して大正十五年より治癒日數の延長したるは、主として主要症狀消退後に於ける、菌檢索を開始したるに基因するものなり。

二、治癒轉歸者の療養日數月別

治癒轉歸者の月別によりて之を見るに、五月、六月、七月、八月の流行季節に於て罹病せる者は寧ろ一般に治療日數短かく、春期秋期に於て罹病するものは治癒日數の長きに亘るは、症狀の重症なりしを又經過の可良ならざりしを示すものならん。

自大正九年
至昭和四年 疫病患者治癒轉歸者月別治療日數表

月別	患者數	治癒者數	延日數	平均治療日數	月別	患者數	治癒者數	延日數	平均治療日數
一月	九	一	一	一	八月	四八	一三六	二、五六	一八・八
二月	一七	二	二七	二七・〇	九月	二六	四七	九八	二・二
三月	二六	二	九	四四・五	十月	一一	二〇	四三	三三・一
四月	五〇	五	一〇〇	二〇・〇	十一月	三六	九	一八	三三・〇
五月	七四	一三	二二	一七・八	十二月	一五	七	二四	三三・六
六月	二六	一六	二七	一七・九	計	二、〇八	三五	七、〇六	二〇・〇
七月	六八	九	一、七二	一九・一					

第七節 死亡轉歸者の平均日數

既往十箇年に於ける死亡轉歸者の平均日數は發病より死亡迄は餘りに短かく二・四日にして、如何に急激なる寧ろ戰慄すべきものなり。

自大正九年
至昭和四年 疫病患者死亡轉歸者年別治療日數表

年次區別	患者數	死亡者數	發病ヨリ 死亡マデ 日數	平均治療 日數	年次區別	患者數	死亡者數	發病ヨリ 死亡マデ 日數	平均治療 日數
大正九年	二〇六	一七一	四〇	二・五	同十年	二五	一七六	四八	二・八

同	同	同	同	同
十一年	十二年	十三年	十四年	十五年
一五	一五	一七	二〇	三三
二七	一〇	一〇	一八	一七
三八	二六	三四	四七	四八
一九	二三	二三	二三	二六
同	同	同	計	
二年	三年	四年		
二四	二七	二六	二〇	二〇
二〇	三〇	二九	一六	一六
四六	五三	五三	四〇	四〇
二・三	二・四	二・四	二・四	二・四

二、死亡轉歸者の月別治療日數

死亡轉歸者の月別治療日數は六月、七月、八月の流行極期に於けるもの最も短かく、秋季に入るに従つて稍々治療日數の延長するを認む。

自大正九年 至昭和四年 疫癘患者死亡轉歸者月別治療日數表					
月	別	患者數	死亡者數	延治日數	平均治療日數
一	月	九	八	一三	一・六
二	月	一七	一三	三三	二・七
三	月	元	二六	五五	二・二
四	月	五〇	元	九五	二・四
五	月	七四	六二	一三八	三・三
六	月	二六	一四	四七	二・一
七	月	六八	五三	一、二四	二・三
八	月	四二	四〇	九三	二・二
九	月	二六	二三	六四	二・六
十	月	一三	一六	三〇	二・七
計		二、〇一	一、六四	四、〇〇	二・四

十一	月	三	二	一	計	二、〇一	一、六四	四、〇〇	二・四
十二	月	一五	一四	四					

第四章 疫癘發生の消長と氣象との關係

傳染病は其の病原體の既知なると未知なるとを問はず、各々一定の病狀、經過、豫後を有することは言を俟たず、又流行の季節に關して各々特異なりとす、即ち傳染病の流行は季節と重大なる關係を有し、殊に疫癘の如きは暑氣の激増氣溫の上昇に伴ひて増加し、炎暑の消退と共に漸次減少するの事實を見るも、一定の關係を有するもの、如く、之れ頗る興味ある事實なり、茲に衛生學上最も密接なる關係にある、氣象構成要素中の、氣溫、濕度、降水量等の關係を既往十箇年に就て調査し、以て病原體浸襲の誘因又は病原體の消長との關係を觀察研究せむとす。

第一節 岐阜縣氣象の概要

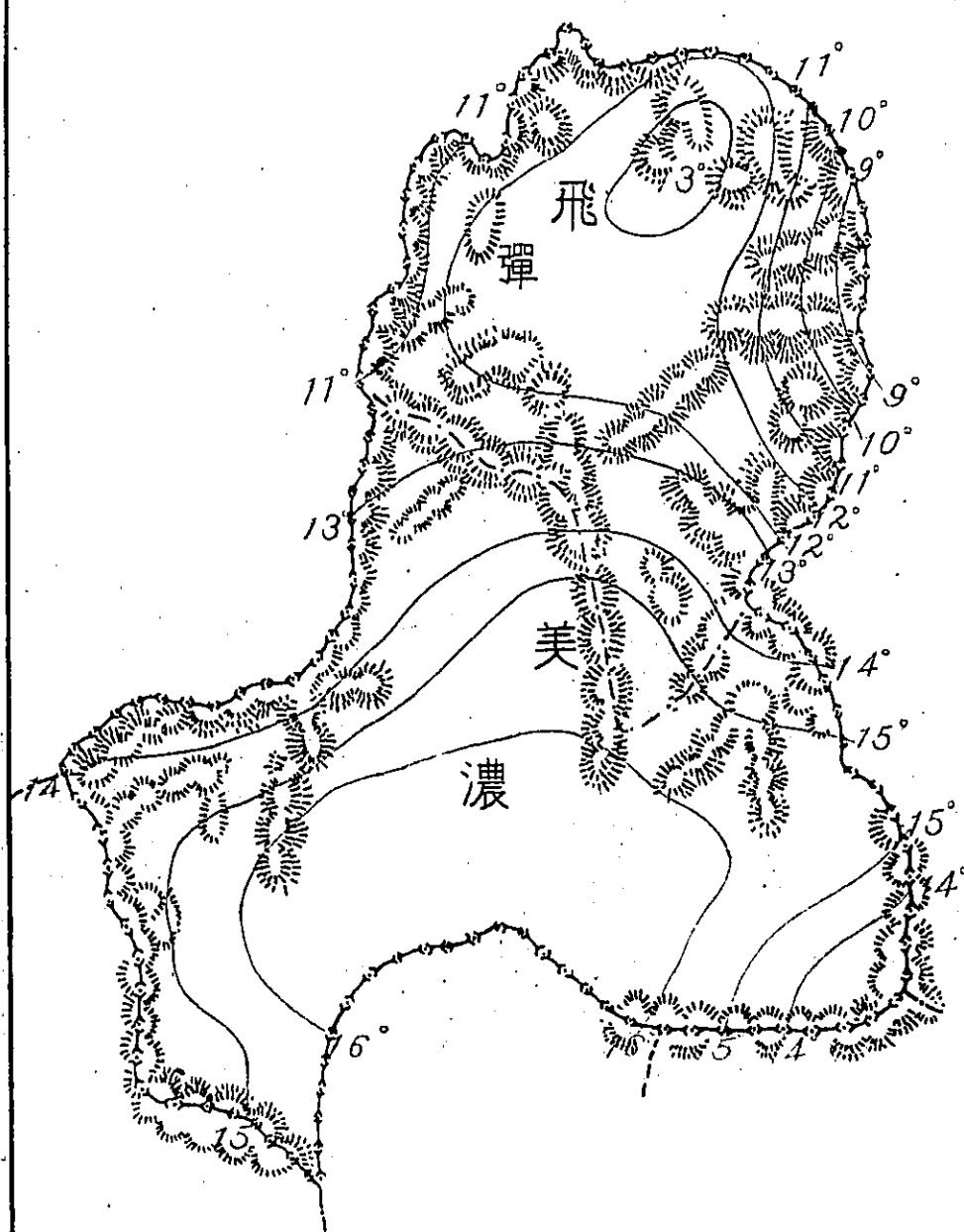
岐阜縣は東山道の西、北陸東海の間に挟まりて海に面せず、東、西、北の三方は山を以て圍み、南の一方のみ廣く展けて濃尾の大平野を爲し、木曾、長良、揖斐の三大川は北より南に美濃國を貫流し、其の間五穀克く實る、東北は高山靈峰相重疊して、北アルプスを形成し、西に白山々脈の一帯ありて相對し、其の間に高山高原を爲して氣溫低く、白山々脈に沿ふては雨量多し、南に至るに従つて地勢低く、氣溫高し。

第二節 溫 度

一、平均温度

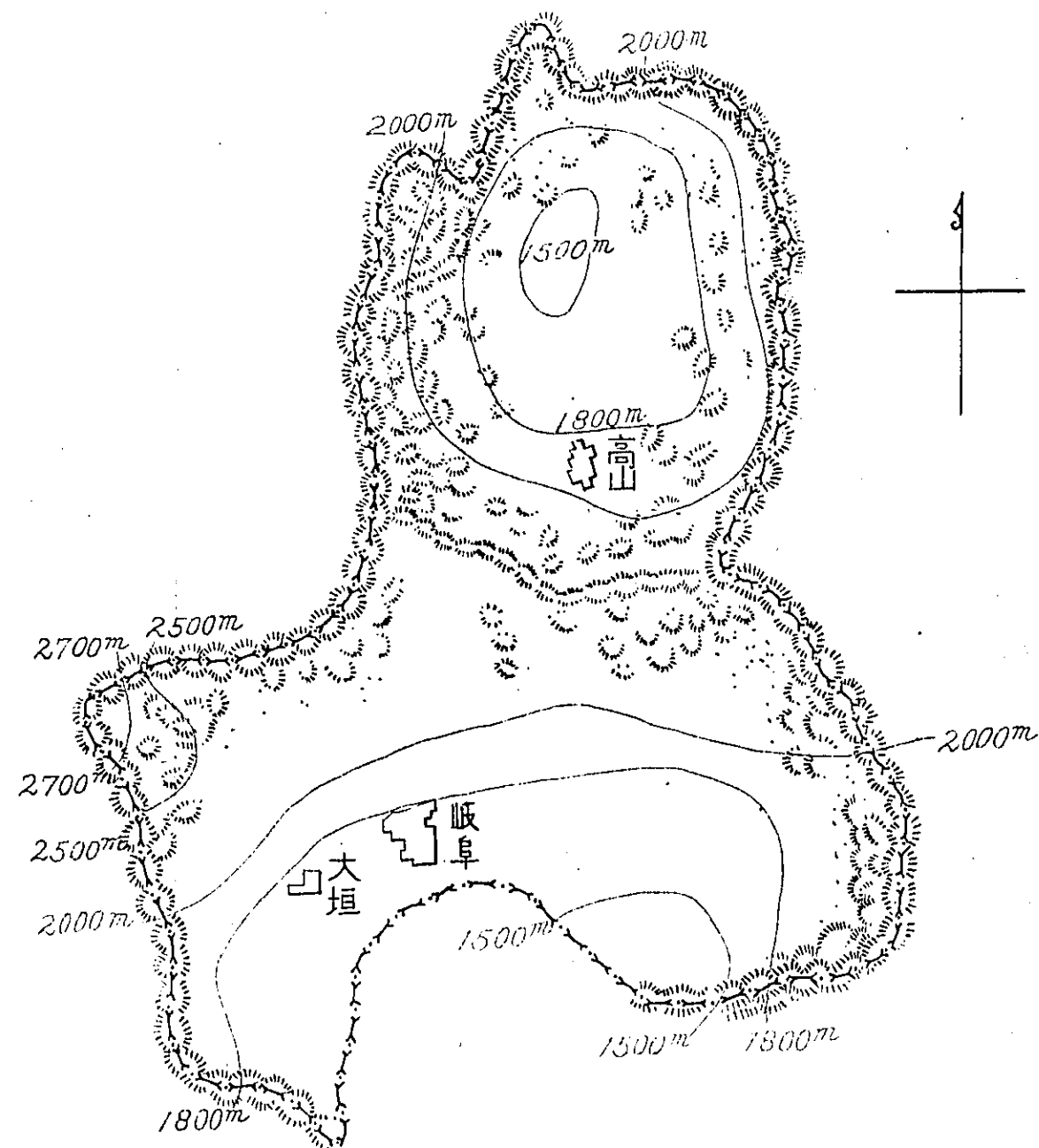
氣象中人體に對し最も直接的の影響を與ふることの大なる氣溫に就て調査するに、岐阜縣内に於て疫癘發生地域を昭和四年同溫線圖に據りて見るに、氣溫一六度線内に患者發生多く、一五度線以下に於ては發生數極めて尠き現象を呈す。今各月に於ける温度と患者發生との關係を窺ふに左表の如し。

岐阜縣昭和四年同溫線圖(午前十時年平均)



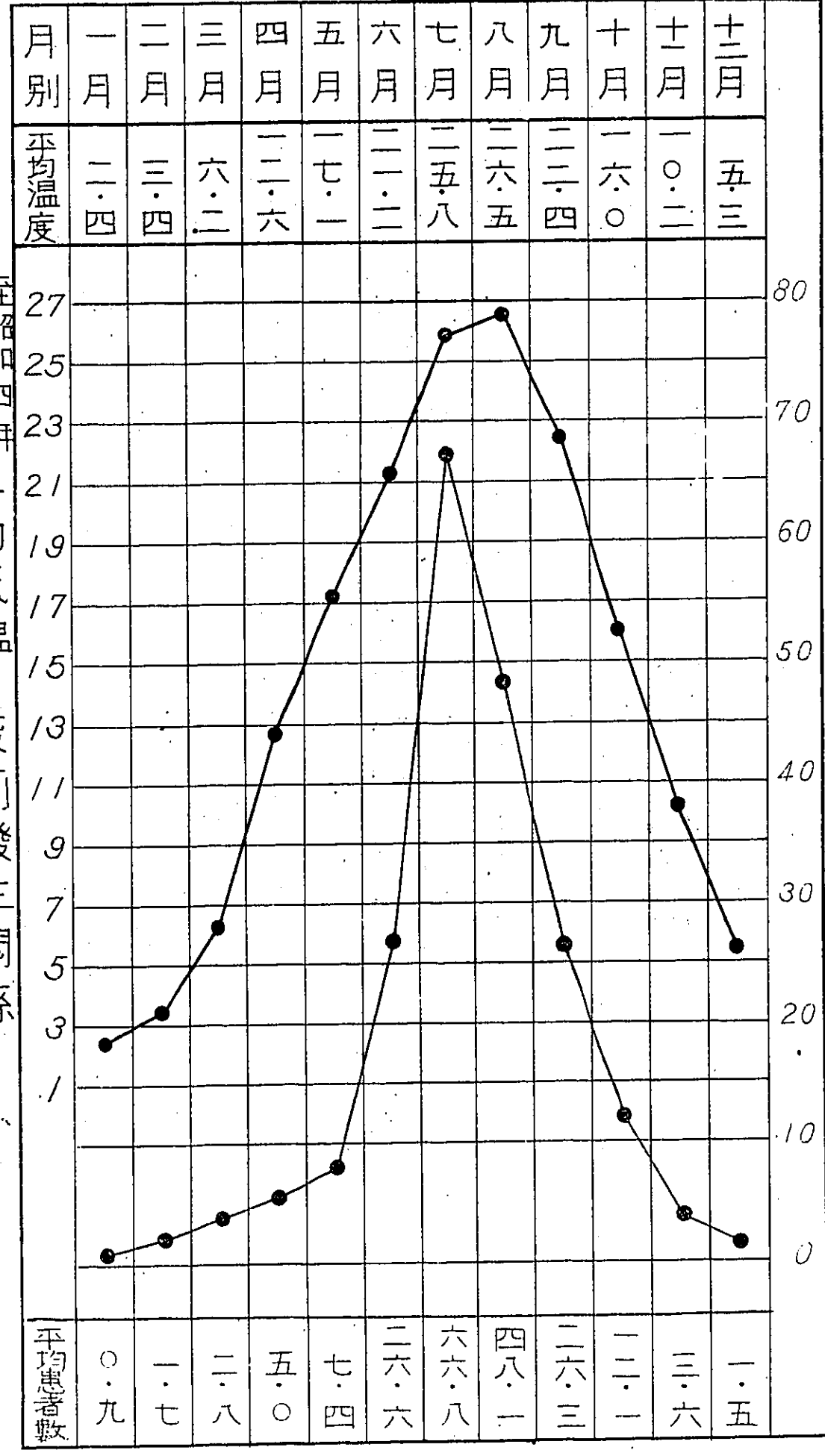
温度(攝氏)

岐阜縣昭和四年雨量配布圖(年合計)



自大正九年 至昭和四年		各月平均温度（攝氏）											
月 別	年 次												
		一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	平 均
	九 大 年 正	三・六	三・一	七・四	一・六	一・七	二・七	二・五	二・四	三・〇	一・六	二・七	一・四・四
	十 大 年 正	四・〇	三・三	五・三	一・三	一・七	一・九	二・五	二・六	二・七	一・五	七・九	一・三・七
	十 大 一 年 正	〇・九	六・九	六・二	一・三	一・七	二・四	二・五	二・七	二・三	一・六	一・〇	一・四・六
	十 大 二 年 正	一・三	三・六	八・二	一・二	一・七	二・一	二・五	二・八	二・三	一・六	一・一	一・四・五
	十 大 三 年 正	二・九	三・九	四・五	一・三	一・六	二・三	二・六	二・八	二・六	一・五	八・一	一・三・九
	十 大 四 年 正	二・六	二・三	五・一	一・一	一・六	二・二	二・四	二・五	二・三	一・六	一・一	一・三・七
	昭 和 正 元 年	一・九	四・一	五・六	一・〇	一・六	二・〇	二・四	二・六	二・三	一・四	九・三	一・三・四
	二 昭 年 和	二・〇	一・九	六・三	一・三	一・六	二・二	二・七	二・五	二・一	一・五	一・〇	一・三・九
	三 昭 年 和	三・二	三・〇	六・七	一・二	一・八	二・〇	二・五	二・五	二・三	一・六	一・一	一・四・四
	四 昭 年 和	一・三	二・〇	六・二	一・二	一・六	二・七	二・六	二・七	二・二	一・六	一・〇	一・四・三
	平 均	二・四	三・四	六・二	一・二	一・七	二・二	二・五	二・六	二・三	一・六	一・〇	一・四・一

至昭和四年
自大正九年
平均氣温ト
疫痢發生關係



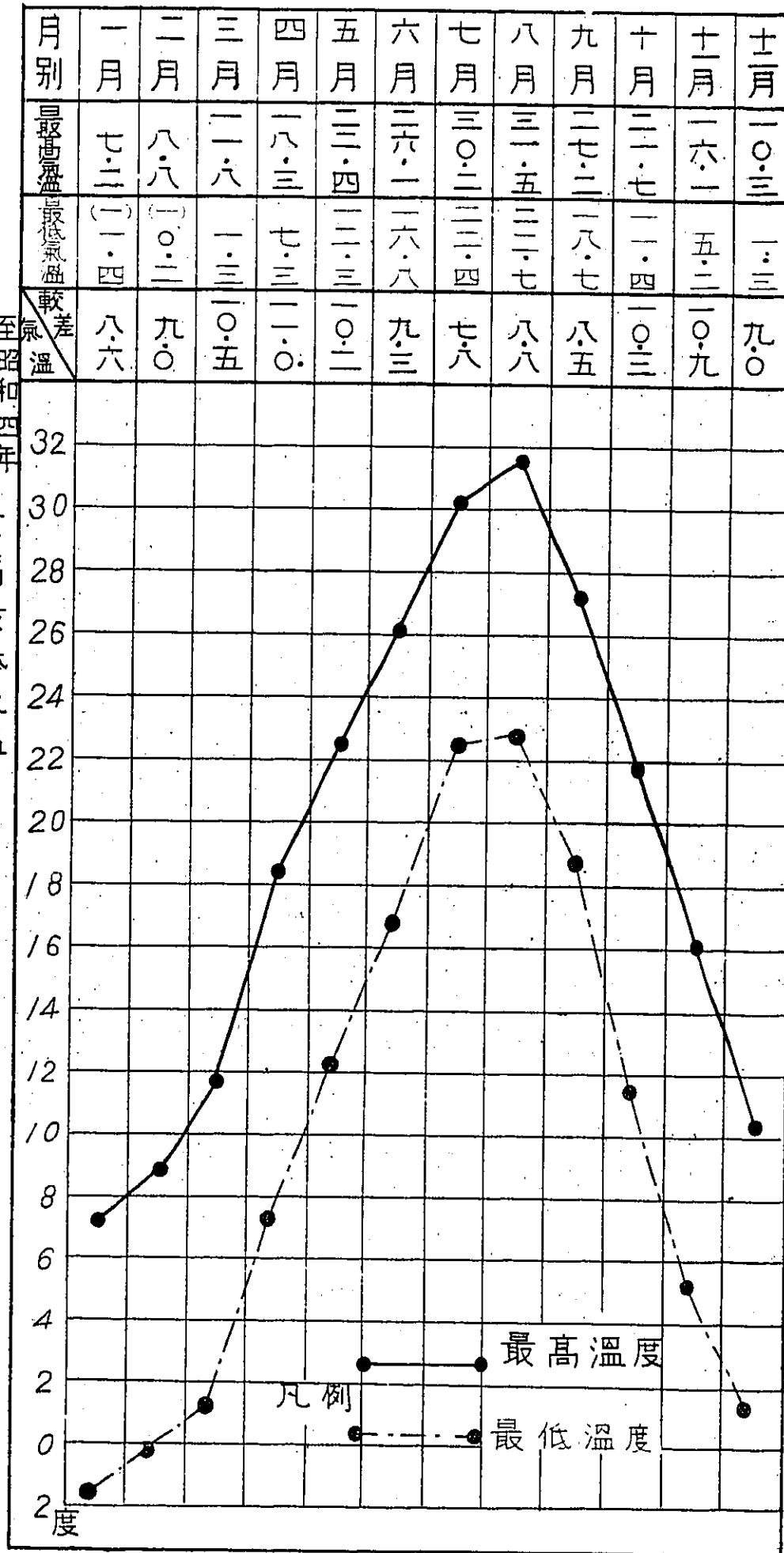
前表に示すが如く四、五、六月と漸次気温の上昇と共に疫痢の發生數を増し七月、八月最も多くして、九月、十月と漸次気温の降下に從つて又發生數を減少するものなり。

二、最高最低温度

気温の平均を知ると共に注意すべきは温度の差異にして、外界温度の差甚しく急激に上昇し、又急激に下降する時は茲に生體の失調を來し、疾病の誘發又は憎惡の因となるべければ、衛生上必要なるは平均温度よりも寧ろ気温の變動、最高最低温度の較差ならん、今月別によりて之れを調査するに左表の如し。

自大正九年 至昭和四年		最高最低气温		月別	
年次		气温		月	
				一 月	
九大年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十大年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十一年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十二年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十三年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十四年正		最高 最低	气温	最高 最低	气温
大正五年 昭和元年		最高 最低	气温	最高 最低	气温
昭和二年和		最高 最低	气温	最高 最低	气温
昭和三年和		最高 最低	气温	最高 最低	气温
昭和四年和		最高 最低	气温	最高 最低	气温
十ヶ年 平均		最高 最低	气温	最高 最低	气温

至昭和四年
自大正九年
最高最低氣溫



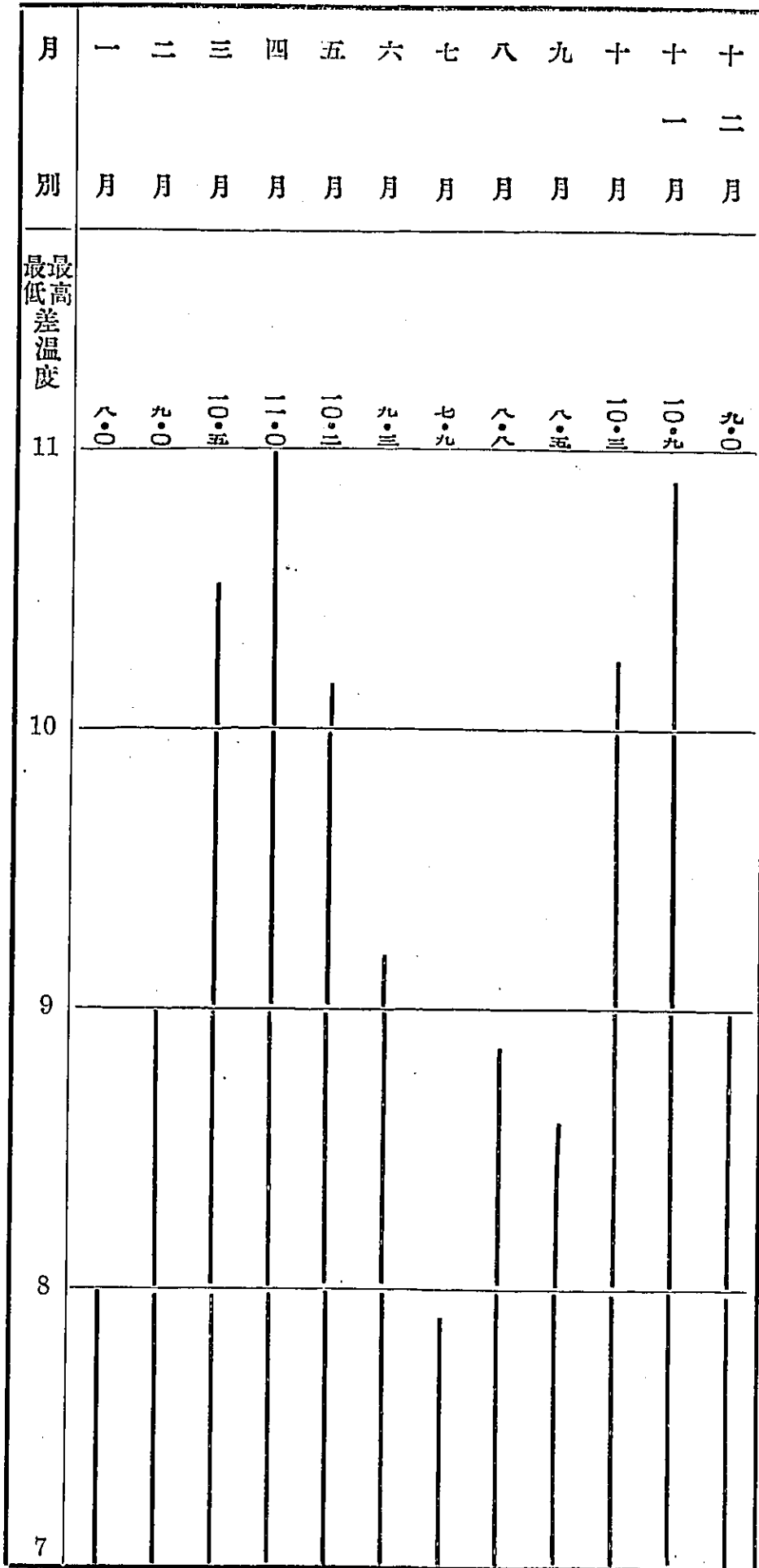
全年	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月
最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫	最高氣溫 最低氣溫
一九.五 一〇.三	一〇.九 一.四	一七.六 六.八	二二.七 一.一	二六.九 一.三	三〇.六 三.四	三〇.七 三.〇	二五.八 一.一
一八.八 九.六	一〇.六 〇.七	一四.三 二.七	二二.九 一.五	二五.九 一.九	三〇.三 三.七	三〇.三 三.三	二五.五 一.一
二〇.〇 一〇.三	〇.八 〇.二	一七.一 五.九	二二.一 一.一	二九.〇 〇.三	三〇.三 三.五	三〇.七 三.六	二六.一 一.二
一九.六 一〇.三	一〇.八 一.九	一六.三 六.二	二二.一 一.六	二七.九 一.二	三〇.八 三.六	二九.四 二.六	二五.六 一.九
一九.二 九.六	一〇.一 〇.四	一四.六 三.〇	二二.四 一.七	二七.〇 一.八	三〇.〇 三.八	三〇.七 三.二	二六.三 一.三
一八.八 九.五	一〇.六 一.七	一六.八 六.一	二二.七 一.三	二七.〇 一.九	三〇.八 三.三	二九.五 二.三	二五.九 一.三
一八.七 八.九	一〇.一 〇.一	一五.七 四.〇	二二.〇 九.七	二八.〇 一.四	三〇.四 三.七	二九.三 二.二	二五.八 一.四
一九.三 九.四	一〇.六 〇.八	一七.一 五.六	二二.九 一.三	二六.〇 一.七	三〇.九 三.三	三〇.九 三.四	二七.〇 一.二
一九.五 一〇.二	〇.九 〇.九	一六.九 六.一	二二.三 一.三	二八.八 一.八	三〇.三 三.九	二九.九 三.三	二五.九 一.一
二〇.一 一〇.三	一三.四 四.九	一五.〇 六.〇	二二.四 一.六	二五.六 一.七	三〇.六 三.六	三〇.一 三.八	二五.五 一.八
一九.三 一〇.〇	一〇.三 一.三	一六.二 五.二	二二.七 一.四	二七.二 一.七	三〇.五 三.七	三〇.四 三.四	二六.一 一.八

既往十箇年平均によりて之れを季節別に觀察するに、各月に於ける氣溫較差の最も大なるは四月の一一度、十一月の
 一〇・九度にして次で三月の一〇・五度、十月の一〇・三度、五月の一〇・二度にして、較差の最も少きは七月の七・九度、
 一月の八度にして、酷寒酷暑の候に於ては氣溫較差は比較的に少し。

年次		月別									
		一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
自大正九年 至昭和四年	最高	八・八	七・五	九・四	一一・一	一一・〇	七・七	七・七	七・三	八・七	一一・六
	最低	八・九	一〇・〇	九・三	九・八	九・九	七・四	六・九	八・六	七・〇	一〇・四
	氣溫較差	〇・五	九・〇	一〇・五	一〇・九	一〇・七	一〇・九	七・一	九・八	九・三	一一・〇
	九	八・三	九・一	一一・〇	一〇・〇	八・四	八・七	七・八	一〇・二	八・七	一〇・五
	十	一〇・一	八・六	一一・三	一〇・一	九・七	九・一	八・五	九・三	九・二	八・七
	十	九・三	九・一	一〇・八	一〇・四	一一・一	八・七	七・三	七・五	八・一	一〇・五
	大	八・七	八・九	一〇・四	一一・六	一〇・四	一〇・四	八・〇	八・七	八・六	一〇・三
	昭	九・六	七・九	一〇・三	一一・一	一一・〇	一〇・八	八・五	八・六	八・四	一〇・六
	二	七・九	八・八	一〇・七	一一・五	一〇・一	八・八	七・六	八・四	九・〇	一〇・〇
	三	八・〇	一一・一	一一・一	一一・二	九・五	一〇・七	九・三	一〇・〇	七・九	八・八
平均		八・〇	九・〇	一〇・五	一一・〇	一〇・二	九・三	七・九	八・八	八・五	一〇・三

平	十
均	二
九・五	九・五
九・三	九・一
九・九	八・七
九・二	八・九
九・三	九・七
九・六	八・九
九・三	八・一
九・七	九・八
九・九	八・五
九・三	八・五
九・六	九・〇
九・五	九・〇

自大正九年(美濃國一圓)最高最低温度ノ差各月平均表
至昭和四年

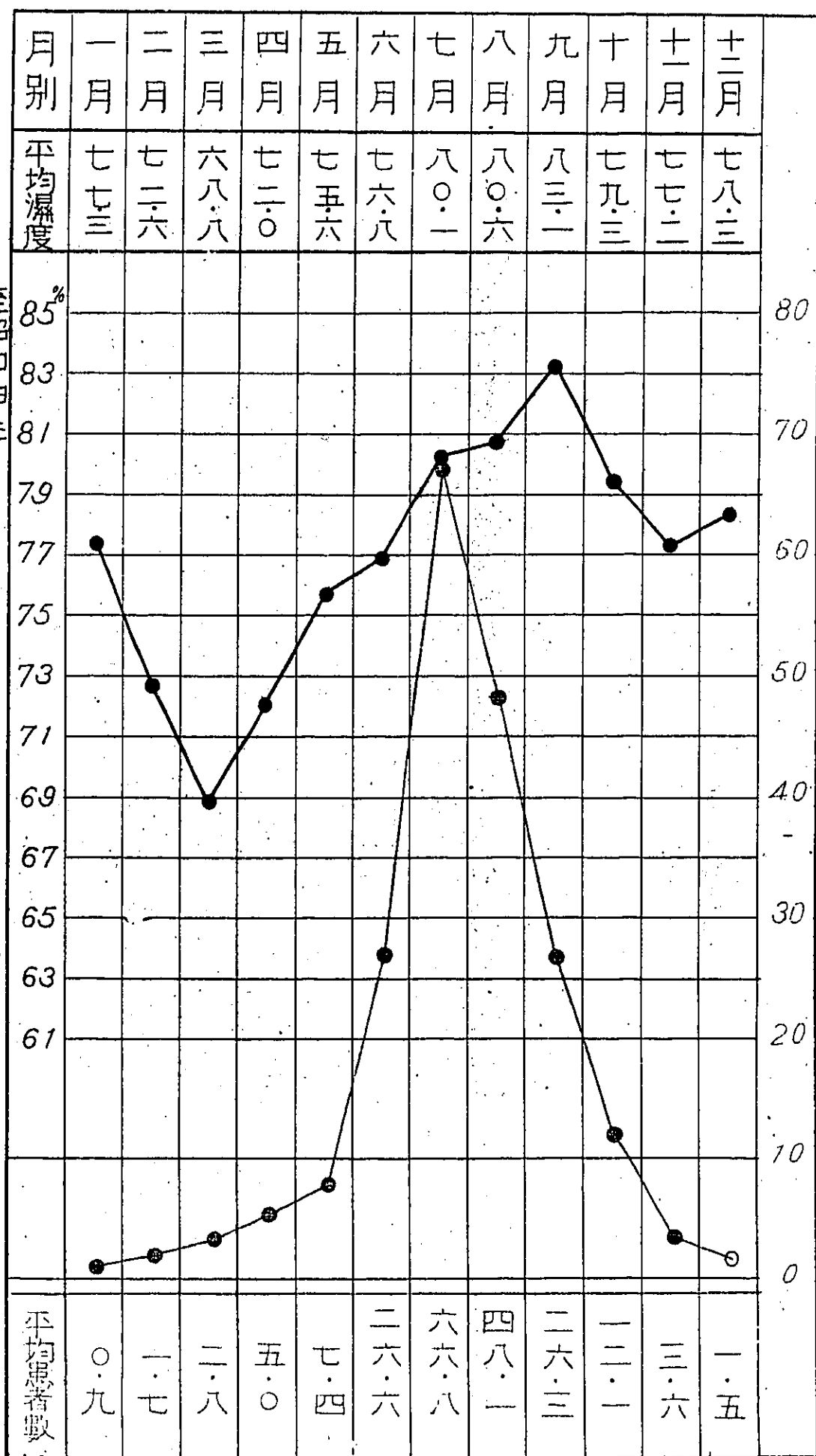


第三節 濕 度

氣温が體內温度の產生と體外への放散とに對し影響することの主なるものなるも、而も尙ほ之れを左右するものは湿度にして、生活體に影響しては温度の放散を緩慢ならしめ、又各種細菌の死滅を妨げ又以て食物の腐敗と各種傳染病の發生と傳播の機を滋くするものなれば、今此處に湿度の増減と疫癘發生との關係を調査するに左表の如し。

自大正九年 至昭和四年		平均 湿度								
年次	月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九
大正九年	月	七三・〇	七三・〇	七五・〇	七三・〇	七三・〇	八一・〇	八二・〇	八五・〇	八三・〇
大正十年	月	七六・〇	七一・〇	六九・〇	七五・〇	七六・〇	八三・〇	八二・〇	八七・〇	八七・〇
大正十一年	月	八三・四	七五・一	六八・一	七一・〇	七二・九	七三・四	八〇・六	七八・二	八〇・五
大正十二年	月	七七・三	七一・九	六九・六	七一・五	八〇・六	七八・五	八〇・九	七八・〇	八三・三
大正十三年	月	七二・六	七二・一	六二・〇	七五・一	七六・〇	七八・六	七七・九	七八・一	八一・一
大正十四年	月	七二・四	七三・六	六九・一	七二・九	七五・八	七八・一	七九・〇	八二・四	八三・六
大正十五年 昭和元年	月	七九・七	七〇・七	七一・二	六六・三	七五・七	七三・九	八〇・七	八一・三	八一・一
昭和二年	月	八一・二	七三・九	六九・八	七一・三	七三・〇	七三・〇	七八・三	八一・七	八四・〇
昭和三年	月	七八・六	七三・四	六六・九	七一・五	七四・九	七八・四	八〇・四	八一・四	八三・七
昭和四年	月	七五・〇	七二・〇	六八・〇	七二・〇	七八・〇	七三・〇	七八・〇	七八・〇	八四・〇
平均		七三・三	七二・六	六八・八	七二・〇	七五・六	七六・八	八〇・一	八〇・六	八三・二

至昭和四年
自大正九年
平均濕度と疫痢發生關係



平	十	十	十
二	一		
均	月	月	月
七六・〇	七六・〇	七六・〇	七八・八
七六・〇	七六・〇	七六・〇	八二・〇
七六・二	七六・九	七五・九	七八・一
七六・三	七六・九	七六・六	八〇・五
七五・六	七六・〇	七六・三	八二・三
七六・七	七六・〇	七六・三	七八・五
七六・一	八二・三	七四・〇	七八・八
七六・六	七六・〇	七六・四	八〇・一
七六・一	七六・一	七六・九	八〇・〇
七六・六	八二・〇	八二・〇	八〇・〇
七六・八	七六・三	七六・三	七九・三